

陸 稻 に 対 す る 肥 料 3 要 素 適 量 試 験

出 井 嘉 光 ・ 福 本 器

(九州農業試験場)

陸稻の栽培面積は近年増大の傾向にあるが、その反当収量は 3～4 俵で非常に少い、この低収の原因の一半が施肥法の欠陥によるものと考え、陸稻に対する肥料 3 要素の適量及び組合せ試験を行った。

陸稻の生育、収量と最も関連のある肥料要素は水稻と同様に窒素であり、反当施用量 2 メまではその増量

とともに収量を増したが、それ以上の増加は稔重を増すが、玄米重は減少した。N の含有率は玄米、稔ともに水稻より高く、また N の吸収量及び吸収率ともに施用量の増加とともに増大した。P₂O₅、K₂O の施用効果は明瞭でなく、従つてその施用適量も見出し得なかつた。(九州農業試験場彙報に発表予定)